

「僕がついている限り勝利は目前！」

藤田正人・法大暴処法弾圧裁判主任弁護士



弁護士の藤田正人の方です。弁護士の理性派といわれています（爆笑）。もう一つ名前がありまして、「無罪弁護士」です（声援）。何か事件があると勝ってばかりという状況が生まれています。もちろん確認する必要もないと思いますが、9月の法大事件の無罪判決、11月の国労5・27臨大事件の無罪判決、私も弁護団に加わっている動労千葉の運転士登用事件も逆転勝訴しましたし、毎月私が関わっているところが、必ず一つは大きい勝利があると（拍手）。ちなみに5・27の暴処法事件の方は、とうとう検察官の方が控訴をあきらめました。だから

無罪確定。大・大勝利。じゃあ12月の勝利は何なのか、まあちっちゃい事例はいろいろあるんですけど、大勝利は何だろうか。まだ大きいのがきてないなあと思ってる所なんですけど、もちろん言うまでもなく、8名の奪還です（歓声）。あと2回、4・24と暴処法とそれぞれ1回ずつ公判がありますけど、その公判が終わった後というのが今年最後の大きな山場ということで、そこで必ず保釈を勝ち取ると。ちなみに去年は御用納め、28日をすぎて、29日の未明に最後の保釈を勝ち取りました（拍手）。えっとそれも私でした（爆笑）。もう僕がついている限りは勝利は目前ということでみなさん一緒にがんばりましょう。

（内容は、12月17日の総決起集会の発言を事務局で編集したものです）

「世界を揺るがす10日間決戦へ」

1) 12月22日、25日の公判闘争にかけつけよう！（1ページを参照して下さい）

2) 12月21日（月）、22日（火）、24日（木）、25日（金）

8学生の年内保釈奪還に向けた連続座り込み闘争

・午前8時15分から9時30分まで一朝ビラまき

・午前11時から午後1時まで一座り込み抗議行動

*東京地裁正門前に集合。ビラまき、署名集めも行います。

3) 5000万円保釈金カンパにご協力をお願いします！

◆カンパ送付先

・郵送：港区新橋2-8-16 石田ビル4階 救援連絡センター気付「法大弾圧救援会」

・銀行振込：三菱東京UFJ銀行 錦糸町駅前支店

普通3520695「ハウダイダニアツキウエンカイ」

・郵便振替：00160-0-585187「法大弾圧救援会」

*カンパに関するお問い合わせ：050-3036-6464（法大弾圧救援会まで）

全国声明運動ニュース

第7号
2009年12月21日発行

発行 法政大学での学生弾圧（暴処法弾圧）に抗議し、8学生の即時釈放を求める全国声明 事務局

【呼びかけ人】入江史郎（スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合・中央執行委員長）／西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）／高英男（全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部・副執行委員長）／田中康宏（国鉄千葉動力車労働組合・執行委員長）／中野洋（国鉄千葉動力車労働組合・常任顧問）／足立昌勝（関東学院大学教授）／荻野富士夫（小樽商科大学教授）／富山一郎（大阪大学教授）／高山俊吉（裁判員制度はいらない！大運動・弁護士）／葉山岳夫（救援連絡センター代表弁護士）／鈴木達夫（国労5・27臨大闘争弾圧裁判主任弁護士）／内海亮子（法大生・内海佑一君の家族）／織田美喜子（東北大生・織田陽介君の家族）／恩田英一（法大生・恩田亮君の家族）／倉岡靖子（法大生・倉岡雅美さんの家族）／斎藤真人（法大生・斎藤郁真君の家族）／増井誠一郎（法大生・増井真琴君の家族）

【連絡先】国鉄千葉動力車労働組合 〒260-0017 千葉市中央区要町2-8 DC会館内
電話 043-222-7207 FAX 043-224-7197

秋吉、登石裁判長を追い詰めたぞ！

12/17 8学生奪還の闘いに 150名が決起して大勝利

-8学生取り戻し、2010年さらなる飛躍を-

12月17日の8学生奪還一日行動には、全学連をはじめ、多くの労働者の参加もあり、150名の結集で大々的に闘われました。用意した1000枚のビラも撒ききりました。



写真は、12/17に行われた裁判所抗議行動

法政大学での学生弾圧（暴処法弾圧）に抗議し、8学生の即時釈放を求める全国声明 賛同数

6852

個人・団体
(12/20)

さらに11時から刑事17部に対する保釈申し入れを行い、被告のご家族を先頭に断固申し入れ書を叩きつけました。昼休み行動の最後には「登石・秋吉裁判長は8学生を釈放しろ！」とシュプレヒコールを東京地裁に叩き

第6、7回公判に大結集を！

■暴処法弾圧グループ（刑事1部）

恩田、増井、織田、内海、新井

第6回→12月25日（金）13時半～

第7回→1月14日（木）13時半～

■4・24集会弾圧グループ（刑事17部）

斎藤、恩田、増井、倉岡、富山、内海

第6回→12月22日（火）13時半～

第7回→1月12日（火）13時半～

※場所はいずれも東京地裁429号法廷です。傍聴券の抽選があるので12時30分に地裁正門前に集合してください。

つけ、労働者と学生は元気よく公判傍聴闘争に乗り込みました。

◆「8ヶ月の勾留などふざけるな！」

齋藤君、増井君が登石裁判長を徹底追及！

17日の公判は4・24集会弾圧グループです。この日の公判では、最初に被告の齋藤君（法大文化連盟委員長）、増井君（法大文化連盟企画局）、内海君（法大被処分者）、富山君（全学連書記長）が、熱烈な意見陳述を行いました。中でも齋藤君は「裁判所が保釈を却下している理由は『罪証隠滅・逃亡のおそれ』としているが、罪証隠滅や逃亡などありえない。釈放されたら、我々は逃亡どころか、法政大キャンパスに断固登場する」、また増井君は「4・24で我々の犯罪とされていることは演説をしたことと笛を吹いたことだけだ、こんな事で8カ月勾留なんてふざけるな！」と長期の未決勾留を強いる裁判所を徹底的に弾劾しました。

この日、検事側「証人」として出廷したのは法大当局の鈴木文夫・総務部長です。反対尋問の中で、鈴木が今年度の法政大入試の時、公道上での全学連と文化連盟の情宣活動に対して、率先して学生に体当たりしたり拡声器を破壊するなどの暴行に及んでいたことが明らかになりました。そして鈴木は「受験生が入試に来なくなって大学の収入が減ると困るから」学生を弾圧した、文化連盟の演説の内容は「何も知らない」と自認しました。こんな人物の言う「大学への業務妨害」など完全にデッチ上げ証言ではないか！

◆8学生奪還し、2010年さらなる飛躍を！

午後6時から弁護士会館で行われた「法政大『暴処法』弾圧粉碎！ 8学生の保釈かちとろう！ 総決起集会」は、白熱的に盛り上



夕方の総決起集会は白熱的に盛り上がった！

がりました！ 闘う労働者・学生が会場からあふれかえり、8万円近くの会場カンパが寄せられました。

集会では弁護団からの年内保釈実現に向けた決意、富山君と恩田君のご家族からの「1日でも早く8学生を取り戻そう」とのアピールが行われました。

全学連の学生から基調提起が行われ、「8学生の即時釈放が『民主党政権打倒』の2010年決戦の展望を圧倒的に押し広げる、22日、25日の公判傍聴へ、21日から裁判所前行動をさらに強化して座り込み釈放要求行動へ、釈放要求署名と5000万円カンパ運動を職場・キャンパスで拡大しよう」ということが熱く確認されました。さらに国鉄千葉動力車労働組合、スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合はじめ闘う労働者からの発言、全国から結集している全学連の学生からの決意表明が行われ、最後に坂野陽平全学連委員長代行から「2010年、全学連は世界の学生運動を束ねる主流派へと飛躍する。御用納めまでの年末10日間を『世界をゆるがす10日間』として闘い抜こう！」と締めくくられました。東京地裁を包囲する闘いで、8学生を必ず奪還しよう！

（報告：全国声明運動事務局）

検修業務の全面外注化阻止の2010年決戦へ 「動労千葉も学生と共に闘います」

滝口誠・動労千葉特別執行委員



私が思うのは、法政大学と国家権力が暴処法といつてもない容疑をでっち上げて、しかも8ヶ月の勾留。ふざけきった社会を変えなきゃいかんと闘いに立ち上がって、3年半で112名の逮捕。しかし、それが世界の闘う学生とあれよあれよという間に連帯していく。そういう闘いに押し上げたのが法政大学の闘いだなあと僕らも感じます。

動労千葉には「平成採」っていう青年労働者がいます。彼らはJR総連・革マルと決別して動労千葉に結集しました。JR総連の松崎派は彼らに嫌がらせをする力がないから権力と会社が親を使って、動労千葉は過激派だ。動労千葉に行ったら嫁さんも来ないよと。昇給も何もないよと。場合によっちゃあクビになりますよと。そういう恫喝をしているわけですけど。そんなもん「ケツ」とね。そうやって結集していいよ2010年には青年部を結成するぞという決意です。彼らを熱い思いで押ししているのは、やっぱり法政大学の闘いです。

それともう一点は、5・27国労臨大闘争弾圧で暴処法と共謀を粉碎しました。やっぱりここも完全黙秘で決してあきらめない。そういう気持ちで闘うことによって勝てるんだ

など。目に見える形で私たちに力を下さいましたね。

私たちはいま、検修業務の全面外注化との闘いをやっていますが、これは単なる動労千葉つぶしだけじゃないんですね。全部の修繕部門を丸ごと出向させると。これは今までないですよ。民営化というのは徹底的な市場原理としてやってきて、日本中が小泉に浮かれてついにここまで来ちゃった。それは国鉄分割・民営化から始まった。そして一巡して今度は全面的なんですよ。これがどんどん民間とか、実際に適用されたらとんでもないことになりますよね。その突破口であるということで僕らはこの問題については徹底的に闘う。

なぜ動労千葉が生きているかという「反合理化・運転保安闘争」というのがありません。その中身は今日は言いませんが。要するに安全です。安全問題を第一にして、このアキレス腱を握って、徹底的に闘って勝ち抜いてきた。この闘争を2月～3月、一大反転攻勢として闘います。

私は今年を振り返ると、この地平は、6・14-15のたたかい。これが新しい労学共闘のあり方を築きあげたと思うんです。ですから私たちは、いわゆる被告のみなさんと、ご家族のみなさん。そしてそれを支えるすべてと連帯して、ますます闘いを発展させていくということだと思います。動労千葉も学生諸君とともにがんばって闘っていきます。

（内容は、12月17日の総決起集会での発言を事務局で編集したものです）